

<特色ある学校宣言文>

夢と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動する生徒の育成を目指し、地域とともに育つ学校づくり

所沢市立狭山ヶ丘中学校「学校だより」 — 令和6年1月 —

URL : <https://tokorozawa-sayamagaoka.edumap.jp/>



狭中だより

[学校教育目標]

『自立と共生』

校長 石原 健

謹賀新年

あけましておめでとうございます
皆様の御健康と御多幸を心よりお祈り申し上げます
本年もよろしくお願いいたします



今年の干支は？

今年辰年という事で辰年について少し調べてみました。年賀状にも竜のいろいろなイラストが見られたと思います。竜はご存じのように中国で生まれた想像上の動物です。ちなみに十二支で実在しない生き物は今年の辰(=龍、竜)のみです。竜は「竜に九似あり」と言われ、角は鹿、頭はラクダ、眼は鬼、身体は蛇、腹は蜃(はまぐり)、背中の鱗は鯉、爪は鷹、掌は虎、耳は牛、に似た生き物として描かれました。また口のあたりに長い髭をたくわえ、喉下には一尺(約30cm)四方の逆鱗があり、ここは大変危険な場所と考えられました。一方で、顎下には、宝物である、宝珠があり、富をもたらすものとも言われました。中国では古くから龍は皇帝の象徴とされ、後に5本の爪を持つ龍は皇帝だけが使える文様となりました。万が一皇帝以外が5本爪の龍の文様を用いたりすれば、それはすなわち「我こそは皇帝である」という意思表示であり、反逆者として断罪されるほどで地位や権力によって爪の数が描き分けられるようになっていました。そして、竜は秋になると淵の中に潜んでじっと待ち、春には竜巻となって天に昇る生き物として語られてきました。日本でも、竜は水の神として祀られたり、縁起のよい生き物として、各地の神社仏閣の絵として描かれたりしています。そして、十二支には各々この世に生きる動物が当てはめられていますが、この竜だけが伝説上の生物であり、この点でもとても竜は特異な存在だと言えます。

これらのことから、竜は昔から、勢いのあるもの、エネルギーがあるもの、(気運が)上昇していくもの、力を感じさせるもの、成長するもの、縁起のよいものと思う一方で、恐れ多いもの、大変怖いものと感じられていたようです。このイメージどおり、今年は竜のごとく、勢いのある年、成長の年にしたいものです。同時に恐れ多いものなので、慎重さも忘れず、確実にやっていくことも頭の隅に置いておくことも大切なのかも知れません。「今年はどうな年にしていこうか?!」と考えるこの時期。ここにあることを是非、参考にしてみてください。



クイズ：竜を使った、熟語やことわざも多く存在します。読み方、意味を考えてみてください。回答は裏面にあります。

- ①「登竜門」 ②「画竜点睛」 ③「竜頭蛇尾」 ④「逆鱗に触れる」 ⑤「亢竜悔い有り」

「令和5年度3学期分の給食費無償と令和6年度4月からの給食費について」

現在、給食費につきましては3学期分が「無償」となっております。所沢市教育委員会によりますと、これは国の『新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金』が活用されたものであるとのことです。

また、所沢市教育委員会では、令和6年度4月からの給食費の無償化について、現在検討しており、これは3月の所沢市議会定例会において協議されるものであるとのことです。今後、情報が入りましたら、またお知らせいたします。

<クイズの答え>

- ①「登竜門（とうりゅうもん）」：立身出世の関門。鯉の中でもとても登れそうもない大激流の門をくぐることができたものだけが竜になれると信じられことからできた熟語。
- ②「画竜点睛（がりょうてんせい）」：中国、梁の張僧繇（ちょうそうよう）が、金陵の安楽寺の壁にかいた竜に睛（ひとみ）を入れたら、たちまち雲に乗って昇天したという故事から、最後の大事な仕上げ、またはほんの少し手を加えることで物事が完成し成就するということのたとえ。
- ③「竜頭蛇尾（りゅうとうだび）」：最初はとても勢いよくやっているが、最後の方はたいしたことはなくなってしまうこと。竜の勢いのよさと蛇が静かに動く様の対比からできた熟語。
- ④「逆鱗（げきりん）に触れる」：目上の人を激しくおこらせること。竜の喉の下の逆鱗に触れると竜が怒ってその人を殺したという言い伝えからできたことわざ。
- ⑤「亢竜悔い有り（こうりょうくひあり）」：天高く昇りつめた竜があとは下るしかないことを知って後悔するということから、高い地位にのぼり、栄達をきわめた者は、あとは衰えるばかりだから身を慎むべきであるとのたとえ。